

会報 第24号

みなみあいづ

発行 令和6年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 青藤修一



只見ふるさとの雪まつり 2月

福島県公立学校退職校長会南会津支部

会報 第24号

みなみあいづ

発行 令和6年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一



下郷町・大内宿半夏まつり 7月

福島県公立学校退職校長会南会津支部

会報 第24号

みなみあいづ

発行 令和6年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 齋藤修一



南会津町・古町 廣瀬神社例大祭 9月

福島県公立学校退職校長会南会津支部

会報 第24号

みなみあいづ

発行 令和6年10月1日
発行者 福島県公立学校退職校長会
南会津支部長 青藤修一



檜枝岐歌舞伎発表会 4月
(檜枝岐歌舞伎・愛宕神祭礼奉納歌舞伎 5月)

福島県公立学校退職校長会南会津支部

はじめに

公立学校退職校長会南会津支部長
齋藤修一

会報「みなみあいづ」第24号の発行に当たり一言ご挨拶申し上げます。今年度も南会津教育事務所長様、南会津町教育長様、郡小中学校長協議会長様、そして会員の皆様から貴重なご寄稿をいただき、誠にありがとうございました。

さて、今年度はコロナ禍から（第5類に移行）ようやく脱出できそうになりました。県大会二本松大会には、支部代表が参加し、次年度の心構えを共有できました。現職・退職校長会合同研修会及び懇親会も開催できました。お忙しい中新しい試み（オンライン形式）で、研修できました。準備に関わった会員に心より感謝申し上げます。おかげさまでもちまして大変有意義な研修会となりました。

今年度前半を振り返ると、能登半島地震、温暖化による猛暑、迷走するのろのろ台風と自然の驚異に日本列島は晒された感があります。混迷を極める政治情勢のなかでも定年制の延長は確実に進んでいます。そんな中でも次年度は県大会・会津大会が御蔵入交流館で開催予定です。会員皆様のより一層のご理解とご協力をお願いします。

会報「みなみあいづ」は年に一度の発行ですが、各地区の会員の近況や支部活動の様子、更に思いなどを知る上で大きな役割を果たしていると思います。今後とも読みやすく何でも語り合える会報にしていきたいと考えております。

目次

○はじめに 目次

○ご挨拶 南会津支部長 齋藤修一 P1

○新会員あいさつ 延長戦 下郷中学校長 (下郷町塩生) 我妻雄比古 P2

○特別寄稿 南会津ライフ 県教育庁南会津教育事務所長 平山明裕 P3
4

「風の中に立て」～伊集院 静 著～ 南会津町教育長 川島敬章 P5

あいさつ(今日を生きるのが精一杯何です) 郡小中学校長協議会会長 室井正之 P6
7

○支部会員から
「あの英雄君がねえ」 南会津町藤生 ----- 星 英 雄 P 8
私にとっての第三のとは 下郷町塩生 ----- 玉 川 邦 夫 P 9
第二の人生は農業助手 下郷町中妻 ----- 佐 藤 英 代 P10
ほとけさまとお寺とあとつぎと 南会津町井桁 ----- 齋 藤 龍 雄 P11
退職後の健康づくり 只見町蒲生 ----- 田 中 昭 一 P12
13
福島先生に深い敬意と感謝 只見町小川 ----- 渡 部 早 苗 P14

○事務局から
栄えある受章だより 祝賀寿(坂内勝典氏) ----- P15
野中備一氏) 春の叙勲(渡部岩男氏) ----- P16
県大会・二本松会だより ----- P17
合同研修会だより ----- P18

○趣味の活動 ～川柳 俳句～ ----- P19

編集後記
思い入れを表紙に ----- P20

役員一覧

ご挨拶

県退職校長会会津大会のレガシーをどう生み出すか



南会津支部長 齋藤修一

今年度もいよいよ後半に入りますが、会員各位のお力添えのお陰で当支部の活動も順調に進んでおり心から感謝申し上げます。

さて、県退職校長会会津大会が南会津支部主管により南会津町御蔵入交流館にて、来る令和7年6月10日（火）に開催される予定となっております。無事無難に終了することを勿論願っておりますが、同時に本当にそれでいいのだろうかとの疑問も生じてきます。この大会を意義付けし南会津での大会のレガシーを生み出すこと

が主管する南会津支部に課せられた責務ではないのだろうかと自問自答をしております。ぜひ各位のご指導をいただければと拙い私案を提案してみたいと思います。

まず、第一は、「日本の教育を自己完結型から貢献型に転換する」その契機としたい。講演者のねっか代表脇坂斉弘さんは、その貢献型教育のゴールの具体的姿である。仕事のない只見で地元の素材を活かして新しい産業を興して只見で生き抜く。これからの教育はこうした地域で生き抜く人材を育成し持続可能な地域を創造していけるようにすることが求められる。これこそ本当の地方創生である。

第二は、「退職校長会という組織も地球市民という意識を醸成する」その契機としたい。環境負荷低減を具体的に生み出す行動を組織として推進していきたい。具体的には、弁当箱のプラの再利用、お茶のペットボトルの代替えの検討、各種表示の為の紙使用料の削減等に挑戦することが大事ではないだろうか。

第三は、「大会宣言を内（自己）なるものから外（社会）に力強く発信するものにする」その契機としたい。この伝統と実績のある組織がどの程度の認知度があり地域にその存在価値が認められているのだろうか。やはり、この大会の学びをその後の日々の地域社会での生活に活かすことが求められている。そう考えるとしっかりと外に発信をしていく新しい時代を迎えるべきではないだろうか。

お恥ずかしい限りの私案ですが、機会を得て各位と議論し、可能なレガシーを生みだせればと思っておりますのでよろしく申し上げます。

延長戦

下郷中学校 校長 我妻 雄比古

還暦は超えましたが、定年延長に伴い4月より特例任用校長として引き続き下郷中学校に勤務しております。

校舎から望む那須連峰の山々、早朝から元気に鳴いているキジやウグイスのさえずり等、下郷町は、大川の溪谷美といで湯の里にはぐくまれた雄大な自然をもつ私の故郷です。本校は昭和47年に旭田（音金分校）、檜原、江川の3つの中学校を統合し、名称を下郷中学校として、町民の期待を担い発足しました。昭和49年4月1日に現在地に新校舎が完成し、校旗、校歌、校章も制定され、名実ともに統合中学校として出発しました。それから50年以上の歴史を重ね、今日の充実した教育環境が整いました。



私自身、下郷中学校を昭和53年度に卒業した第7回目の卒業生になります。当時を思い起こすと、同学年が4クラスであり生徒数が179名でした。全校生徒数は500名を超えていました。男子生徒は、坊主頭に学生帽をかぶり、指定の下げカバンを肩にかけて登校していました。

時代はさかのぼりますが、会津藩五代藩主松平容頌の時「教育は百年の計にして藩の興隆は人材の育成にあり」とした家老田中玄宰の進言によって、藩校日新館が作られました。その頃より、学びこそが何をおいても取り組むべき施策であり、人材育成が会津の芯と考えていたようです。

我が母校 下郷中学校

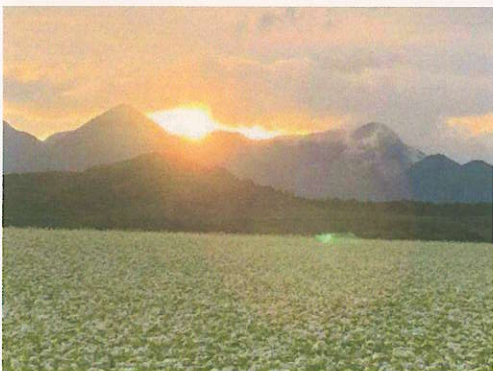
本町では、平成17年度より児童生徒の学力向上、学習習慣・生活習慣の確立を目的として「四つ葉のクローパープラン」が組織され、町内3つの小学校と本校を「希望」「情熱」「愛情」「幸福」をもたらす四つ葉に見立て、町の教育目標である「新しい時代を創る人材の育成」に取り組んでいます。

時は流れ、東日本大震災と福島原発事故の災禍を経て、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、そして人工知能の進化や科学技術の進歩により仕事や生活が大きく変わろうとしています。

時代や環境が変わろうとも、教育が「人材育成」であることには変わりありません。社会のニーズに応じて活躍できる人材を育てるのが学校の使命であるように思います。

学校は、「ある」ものではなく激変する社会のニーズを先取りしながら「つくる」ものでなければならないと考えます。

校長室には歴代の校長先生の写真が飾られ、初代校長の星亀雄先生から15代目までの校長先生方が私を見つめています。53年の歳月を振り返り、厳しい社会情勢の中で、新しいものを創り上げていこうとされた情熱と意気込み、行動力に感謝すると同時に、私自身、延長戦を楽しみながら最後まで全力で走り切りたいと思います。



猿楽台 そば畑



桜満開 湯野上駅

南会津ライフ



福島県教育庁南会津教育事務所長 平山明裕

南会津教育事務所勤務も2年目となりました。これまでたくさんの方と出会い、多くのものを見たり体験したりして、南会津ライフを満喫しています。人生のほとんどを浜通りで過ごした私にとって、南会津の山々はたいへん雄大なもので、その力強さから毎日パワーを送ってもらっていると感じています。

自然といえば、四季の移り変わりを人生で一番実感できたのも南会津です。

春－南会津のあちこちで長い年月をかけて育てられた見事な桜が咲きほこります。厳しい冬を過ごした南会津の人々の営みに活気があふれ、気持ちがワクワクしている雰囲気を感じました。

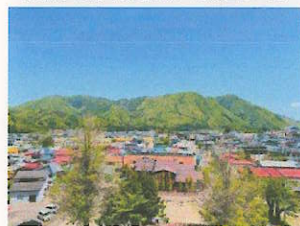
夏－木々の若葉がみずみずしい緑色に包まれます。そして盛夏に向かうとこの緑色がどんどん深くなってきます。ここ数年猛暑が続いていて、南会津で30℃を越す日もありますが、朝晩の涼しさ、高原に吹く風は爽やかで心地よいものでした。

秋－南会津に来て気づいたことは、山のほとんどが落葉広葉樹で覆われていることです。したがって、南会津の秋の山々は丸ごと紅葉で覆われる見事な景観でした。

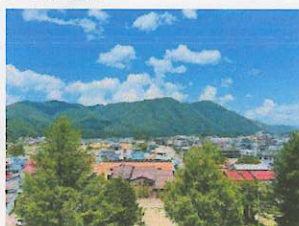
冬－厳しい寒さの冬ですが、去年は暖冬で雪も少なかったとのこと。周囲からは「雪が少なくてよかったですね。」とよく言われましたが、浜通り出身の私には60cmの雪上を歩くことも、車に積もった雪をおろすのも貴重な体験でした。早朝からきれいに除雪してくださる方々にも感謝しています。

このように南会津は季節ごとに象徴的な色があると感じます。それぞれの季節で感じられる色、雰囲気が本当に素晴らしいと思います。

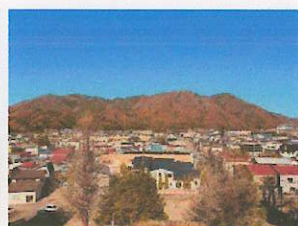
【南会津合同庁舎屋上からの写真】



5月



7月

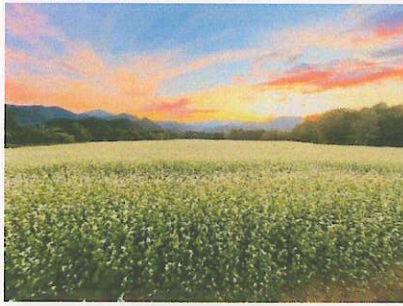


11月



1月

季節にも関わりますが、南会津の食についても楽しんでます。南郷トマトやアスパラなど地元で生産されたものがたくさんある南会津ですが、特に蕎麦は絶品です。以前勤務した学校で蕎麦打ちを行ったことで、蕎麦が大好きな私には、南会津は最高の場所です。昨年8月下旬に見学した館岩や猿楽の広大なそば畑に広がる真っ白な花はとても綺麗で感動しました。秋の「新そば祭り」を含めて、店主が心を込めて打つ南会津の香豊かな蕎麦をあちらこちらで食することができ、蕎麦好きに拍車がかかっています。



館岩のそば畑

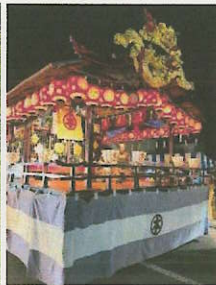
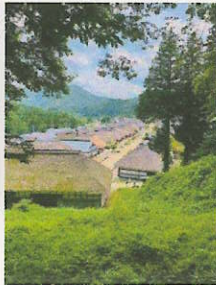


猿楽のそば畑



日本酒も堪能しています。もともと日本酒を飲むことはほとんどなかった私ですが、南会津で美味しい日本酒とたくさん出会い、4つの酒蔵の酒を次々と味わわせてもらっています。一つの酒を造るのに多くの人の思いが入った南会津の酒が、毎年5月に発表される全国新酒鑑評会で高い評価を得ていることがとても嬉しいことと感じています。

南会津の歴史と伝統文化、名所や旧跡などに触れる機会が多くあり、感銘を受けています。子供歌舞伎や桧枝岐歌舞伎など南会津域内に広く浸透している歌舞伎文化、多くの観光客でにぎわう大内宿や塔のへつり、国の重要無形民俗文化財である田島祇園祭、日本を代表する自然の宝庫である尾瀬、日本屈指の貯水量をほこる田子倉ダムと田子倉湖、戊辰戦争で義のために戦った河合継之助の記念館などなど、時間があれば足を伸ばし、地元の方々から南会津の財産についてたくさん学ばせていただいています。



季節や食、歴史や伝統文化について触れましたが、この紙面では紹介しきれないものや、まだ経験していないものもたくさんあると思います。しかし、すべてに共通するのは、それぞれの良さや特色を支えているのは南会津の「人」だということです。南会津の「人」たちの思いや努力があって、素敵な景観や自然は保たれ、伝統が若い世代に引き継がれています。各学校や地域においても、地域の「人」と連携して、子どもたちに南会津のよさを理解し伝承していかこうとする取り組みが活発に行われています。南会津の「人」たちはとても素敵なのです。素敵な人たちと過ごす南会津ライフは最高です！



「風の中に立て」
～伊集院 静 著～

南会津町教育長 川島 敬章

福島県公立学校退職校長会南会津支部の皆様には、大変お世話になっております。

退職してから、事務局長を4年間、監事を1年間務めさせていただきました。その間役員・理事の方々をはじめ、多くの皆様からご指導いただき、何とか事務局長等の責務を果たさせていただきました。厚く御礼を申し上げます。

さて、今年の6月上旬に、ある新聞社から本の紹介の依頼を受けました。当初は、私の研究分野でもある修験道の「塩沼亮潤」氏か、好きな作家である「伊集院静」氏の本にするか迷っていましたが、しかし、立場上、宗教がらみの本でもないと思いアラン著の「幸福論」にした経緯がありました。今回は、伊集院氏の本を紹介したいと思います。

標記の「風の中に立て」は、「大人の流儀」シリーズの作家、伊集院静氏が遺した珠玉の名言集です。タイトルの「風の中に立て」は、新成人向けのメッセージで「この国以外の、風の中に立ちなさい。世界を自分の目で観ることからはじめなさい。」と、旅をすることを勧め、自らの五感を使って体感することの重要性を説いています。

私は、平成6年に、文部省短期派遣ということで、チェコ、フランス、オーストリアを訪問する機会を得ました。ペレストロイカ後のチェコには、西側の風が吹き、私たちの教育視察団の受け入れも可能となり、教育制度も大変参考になりました。チェコの小学1年生の後半では「かけ算」の授業がなされていたり、フランスでは、バカロレア（フランスの国民教育省が管理する、高等学校教育の修了を認証する国家試験）が重要視され、複線型の教育制度だったりすることが印象的でした。特に、昨今話題になっている「中学校部活動地域移行」の問題は、西欧においては、すでに国家制度として成立しており、個々の児童生徒が自分の興味・関心に応じて、ピアノやバイオリン教室、サッカーやバスケットクラブチーム等に参加していました。（今から30年も前の話です。）子どもたちは、自分の個性を十分に伸ばせる環境が整っていました。

伊集院氏の、別の名言では「親が子供にする最後の教育は、彼、彼女の死である。」とあります。私の母は、不慮の事故で亡くなりました。大学生の金欠時代、生まれて初めて最初で最後の手紙をもらったことを思い出します。小さな身体で畑を耕し、内職で稼いだ「聖徳太子1枚」とたどたどしい文字で書いてあった手紙でした。父に内緒で送ってくれたものと思いますが、母からは、「誠実」という生き方を教えてもらいました。

「たとえ何歳で生を終えようが、その人なり、その子供なりのまぶしさがある」「哀しみをやわらげてくれるのは、一番は時間である」と伊集院氏は言います。氏も、弟、妻と別離しています。「出会いは必ず別離を迎える。それが『生』であり、生きていることがどんなに素晴らしいことかを、さよならが教えてくれる。」とあります。伊集院氏の作品は、決して飾らず、それでいて心に沁みる、傍らにそっと置きたい書物です。

今日を生きるのが精一杯なんです

南会津郡小中学校協議会長 室井正之
(南会津町立田島中学校)

はじめに、田島中学校のある卒業生から、私が学び考えたことを、少し述べさせていただきます。南会津教育事務所の広報「南会」でも触れておりますので、以下はその広報「南会」からの抜粋です。

『田島中学校の卒業生に、星 幸広さん（旧田島町水無出身）という方がいます。ご存命であれば今年80歳ですが、3年前に他界されました。

私は直接の面識はありません。でも管理職になってから苦しい時や判断に悩む時に、何度も幸広さん執筆の書籍を読んで、勇気もらってきました。その意味で幸広先生の訃報はとても残念でした。

幸広先生は地元高校卒業後、千葉県警察官として奉職、警察庁警備局（首相警護責任者）や警察署長などを歴任、退官後に千葉大学大学院講師となり「学校危機管理」について研究をするようになります。

豊かな経験、明確な根拠、歯に衣着せぬ論調は（と言っても、私は文章で学んだだけです）、学校現場に大きな影響を与えました。郡内でも10数年前に教育事務所主催の学校事故防止研修会や郡校長会で講演を行い、多くの教職員が学びました。そんな時期に、私も先生の書籍に出逢ったのでした。

=中略=

（その書籍の）最後に（幸広）先生は「お世話になった教育界に足跡を残そう。」とも述べます。（幸広）先生は警察界と教育界の両方に足跡を残しました。私は、自身の足跡を残すなんておこがましいことではあるが、せめて退職するその日まで精一杯、努力することが大切、それが「少しでも足跡を残すことであり、職業人として育ててくれた教育界への恩返しだ」と考えるようになりました。』

定年退職を意識するようになって、教員としての自分の足跡を振り返ることは必要なんだろうなと思っていました。定年間際になると、皆さんそのような思いになるのだろうと思っていました。

しかしながら現状、管理職として、しかも最終責任者として学校経営を司っていると、そんな思いを抱く余裕はなく、「今日を生きるのが精一杯」で、日々を過ごしているのです。

おそらく「退職するその日まで」、そして「教員や校長職から離れた身分」となっても、その日その日に「すべきこと」があるわけで、私には足跡を振り返る余裕など

無いのではと考え始めています。前に進んでいけば、自ずと「足跡をつける（残す）」ことはできます。でも後ろを見なければ「足跡を振り返る」ことはできないのです。

さらに、元気で頑張れるうちは「すべきこと・やりたいこと」を持っていることが大切なんだろうとも考えるようにもなりました。もちろん他人様に迷惑をかけること無くですが。

実は、引用文の「教育界への恩返し」というフレーズは、今年4月の退職校長会南会津支部定期総会に出席させていただいた時に、齋藤修一支部長様があいさつの中で述べられた「退職校長会の存在意義」の部分なのです。

そんなことを考えながら、校長としての最後の年を過ごしています。

さて、令和6年度の南会津郡小中学校協議会（現職校長会）は、5名の新入会員を迎えスタートしました。近年見られる特色として、退職校長会と現職校長会を兼務？される方が2名いるという点を上げることができます。これからは役職定年を経て現職として活躍する校長がたくさん出てくると思います。定年年齢の引き上げは、校長職ひとつをとっても、いろいろな課題があり、いま大きな過渡期となっています。

その他にも「コロナ禍で大きく進んだICT環境」「多様性を尊重する教育活動への変化」「児童・生徒数減少の中での諸問題」「教職員の価値観の変化」「働き方改革の中での諸問題」などなど、現職校長会として「今日を生きるのが精一杯」ではありませんが、協力して対応していければと活動しています。

最後に、南会津郡小中学校協議会（現職校長会）としては、先達である退職校長会の皆様との連携により、いっそう南会津の教育を盛り上げていくことができると考えております。今後ともご支援、ご協力、ご指導をくだいますようお願い申し上げます。



令和6年度南会津郡小中学校協議会会員一同

※ 前列中央が 室井正之田島中学校長です。

「あの英雄君がねえ」

会 員 星 英 雄



友人の娘さん作

家を片付けていたら荒海小学校3年の時の通信簿が出てきた。見るとどうやら私は少し困った子だったようだ。確かにこんな思い出がある。

音楽の授業が終わると担任の先生が「力のある男の子、音楽室までオルガン運んでちょうだい」と言ったが、私は行かずに遊んでいた。すると先生が「どうして英雄君は手伝わないの」と聞いたので、私はすぐさま言い返した「俺、力ないもん」。

その後の展開は皆さんの想像の通りである。確かに遊びを優先したい気持ちがあったが、その時の私は「先生は間違いなく『力のある人』と言った。俺は他の人たちよりは力がない。運ぶ人数は足りていた」などと、自分を正当化することに必死で、先生の諭し声も遠くに聞こえていたと思う。

さて、こんな私を先生はどう思っていたのだろうか。私だったら間違いなく「屁理屈ばかり言う厄介なやつ」である。ただ、そんな私をどうにかしようとする先生の思いが通信簿に見られる。

「悪いことだと知っていながらやることもあり、少し心配……」など、沢山の細かい文字で書かれた所見からは、先生のストレートな思いが伝わってくる。今更だが本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになる。教師を経験した自分なので尚更それを強く感じるのかもしれない。正に「なってみて分かる」である。

通信簿の担任名には「田村満子」と記されている。星（旧姓田村）満子先生とは時々お会いする機会があったが、なんとなく気恥ずかしくて、その時の思い出話もしないままになってしまい大変残念である。

ただ、お盆に飾られた先生のお写真が「あの英雄君がねえ」と言っているようなので、「本当ですねえ。自分でもびっくりですよ」と答えてきた。たくさん迷惑をかけたが、自分としては教師になれたことが一番の罪滅ぼしだったかと思う。

若いころパソコン講座の手伝いを頼まれ、満子先生が受講する講座を担当したことがある。おそらく「あの英雄君」から教わる先生の思いは、とても複雑だったと思う。ただ、自分にとっては成長した姿を見てもらえる絶好の機会となり、とても良い思い出でとなっている。



思い出の荒海小学校

私にとっての 第三の人生とは

下郷町塩生在住 玉川 邦夫 (73歳)

「第二の人生、すべり出し上々！」というタイトルで、何度か校長会の広報に投稿させていただきました。第二の人生があるなら、第三の人生もあって良いのではということで、今回、実に勝手なタイトルで近況報告をさせて頂きたいと思います。

「第三の人生」と言う言葉を様々な話の中で使うようになったら、どういう訳か、自分が新たなスタートラインに立ったようで、3cmも縮んだ身長を人前で伸ばそうとしたり、目を大きく開いて、垂れ下がってきた目じりを隠そうと無理したり・・・。

ただ、自分の殻に籠らないようにしたい。今までの人とのつながりを大切にしていきたい。と、思っただけの行動が、以下のような二つの活動に繋がっていったと思っています。

1. どの町でも、小学校の長期休業中に保護者が就労等により保育が困難な児童を対象に、町は学習や遊びの場を提供し、健全育成を図る「児童クラブ」事業を実施しています。ただ、平日(7:30~18:30)の支援員確保が困難であること言うまでもありません。そこで、長期休業中の学習活動の一部を、元教職員で支援できることがあればということから、私たちは、関係機関の方々と協議をしてみました。

その結果、子供たちが有意義な夏休み生活を送れるよう、さらには、一人ひとりの意欲を引き出す支援ができればということで、夏季休業第1週目から支援員の仲間に入れていただきました。7名(元教職員)による学習サポート事業の誕生です。地域の方々からは喜びの声も頂きました。今後、継続してやって欲しいという願いから、町は補助事業として予算化を図ってくれました。冬季休業中も4日間を計画しています。

2. 本町の観光資源は、ご承知のように大内宿、湯野上温泉、塔のへつりです。私はこの10年、観光のお手伝いをして来て、自然豊かな我が町にまだまだ眠っている資源があるのではないかと、これからの観光は、客を待つのではなく呼び込めるような企画が必要だろうという思いが強くなりました。

町観光公社も着地型・体験型プラン等に力を入れています。そこで始めた事業が、「サイクルロゲイニングin下郷」(10月13日開催)です。今年3回目を迎えます。県内各地でも開催され、人気を博しているサイクリンイベントの盛り上げに、私たちのサイクリング愛好会も協力していくことになりました。

前回まで、参加者はほとんどが他町村からのお客さん。町民の参加を広め、サイクリングを健康づくりに結び付けて行こうという夢こそが、私にとっての第三の人生にふさわしい活動では、と思いを強くしているところです。



夏休み中の児童クラブ



サイクルロゲイニングin下郷 <R4.10>

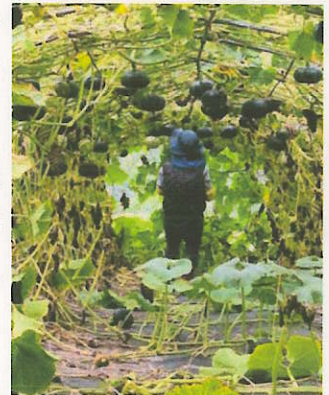
第二の人生は農業助手

下郷町澳田 佐藤英代

退職後に即始めた野菜作りは鉄一つ持ったことのない私には無謀であった。野菜づくりの作業は機械を使い、野菜に応じた土作り、追肥、畝の立て方等々があり非常に難しかった。ただその中でも草むしり・収穫は自信を持ってできるので農業助手としてそれに徹することにした。

自宅近くの猫の額ほどの畑で始めた野菜作りは、朝から成長する野菜を見て収穫・料理する事で元気をもらい、無理なく楽しくできた。しかし、そんな野菜畑も年々増える「猿・猪・鹿」に食い荒らされ、3年も経つとすっかり荒地になってしまった。

そこで自宅から5キロ程離れた畑を2反ほど借りて再び野菜作りが始まった。自家用と考えた野菜も多量に収穫ができ、消費が追い付かなくなってきた。処分するには非常にもったいないので、「道の駅への出荷」を始めた。お客様に満足いただけるよう野菜の選別・袋詰め・店の陳列は何かと気遣うことがある。それでも売れた時、お客様から「おいしかったよ。」と声をかけられた時はモチベーションがあがり、明日も頑張ろうという気持ちになる。欲も出て現在は4反の畑を借りての野菜作りをしている。仕事の内容は依然と変わらず農業助手としての草むしり・収穫、それに道の駅への出荷である。



たわわなカボチャ

でも、歳を重ねるごとに体力が衰え、物忘れ・できないことが少しずつ増え正直体が辛くなってきた。

残りの人生、最期までびんびんでいたいので程よい刺激のある農業助手の仕事は欠かせないが、体調管理をしながら元気で無理なく楽しくできる範囲で農業助手を続けていきたい。

(広い畑の様子をご覧ください。)



見事なネギ畑



防虫対策もバッチリ



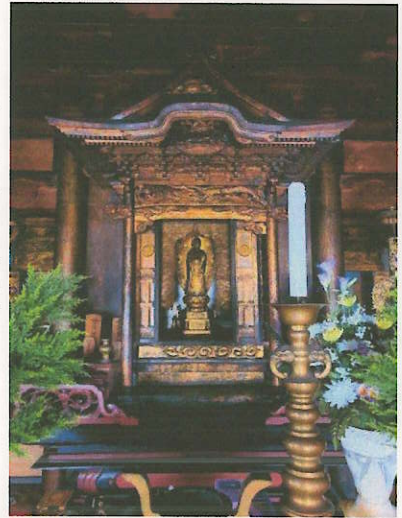
里芋 大きくなーれ

ほとけさまとお寺とあとつぎと

南会津町 井桁

斎藤 龍雄

令和2年の広報誌に寄稿したとき、平成23年に住職となってから99名の方の葬儀に立ち会ってきた……としましたが、4年経過しさらにその数が増して168名となりました。9年で99名は平均1年で11名。4年で69名は平均すると17名強。増えた原因は、令和3年に同じ真宗高田派の寺院である只見町の妙雲寺の住職が64歳という若さで逝去されたからで、同じ只見町の重福寺というお寺も兼務していたので、私が代務の役割を仰せつかったというわけです。檀家数は約100軒ほど増えました。



只見町の2ヶ寺の葬儀や法事も務めるようになって驚いたことがあります。それは、只見町にある8ヶ寺の全てが住職が不在であるということでした。ほかの6ヶ寺も近隣の同宗派のお寺の住職が代務していることになり、中には新潟県から来てもらっているというお寺もありました。「只見町にしてこれか……」と、私はお寺の後継者問題がいかに切実かを再認識させられました。

後継者問題は高田派でも同様です。南会津町に6ヶ寺ありますが、そのうち2ヶ寺の住職は独身で後継者がいません。1ヶ寺はお寺は継がないことがほぼ決まっているようですし、もう1ヶ寺も後継者は決まっています。かろうじて2ヶ寺のみ後継者があるという現状です。自坊も一応後継者は決まっていますが、本堂が築約300年になろうとする古いもので、大分柱や床が傾いており、数年前には雨漏りがしていたという別の問題も抱えています。肝心のお堂が倒壊してなくなってしまうと元も子もありません。新築するほどの資金の調達は無理ですが、何とか修理修繕を施して次代につなげなければならないと、役員の方々と相談し、檀家の支援と協力のもとに工事をしていきたいと腐心しているところです。人手不足、人件費の高騰、原材料の高騰などに加え、檀家さんの高齢化、独り暮らしや施設での生活者なども多くなり、予算の確保が最大の懸案です。自源寺18代住職の私が、19代目となる息子に後を継いでもらうために避けて通れない難関なのです。



お釈迦様が涅槃に入られて凡そ2600年。未来仏と言われる弥勒菩薩は、46億7千万年後にこの世に現れて私たち衆生を救ってくださると言われており、極楽浄土の阿弥陀如来も寿命には限りがあるとされ、そのあとつぎは観音菩薩だと言われています。

令和5年の日本人男性の平均寿命の81.5歳まであと10年弱。それまでになんとか令和の大修理を……というのが、煩惱具足の凡夫の今の私の大悲願なのであります。

退職後の健康づくり

只見町蒲生 田中昭一

退職してもうすぐ15年になろうとしている。その間大きな病気や長期入院もなく、健康で過ごせることに感謝している。あの激動の平成23年に一度に災害が襲ってきて（福島・新潟大水害 H23. 7月30日）線状降水帯+只見川のバックウォーター+土石流で、一時陸の孤島になり、自衛隊のお世話になりながら、避難生活まがいの二週間を経験することとなった。仮設トイレを各自裏の畑につくりながら支援物資で生活した。区の役員をしていたので午前中は、田畑の生活用水確保の共同作業 午後は支援物資の各家庭への分配であった。こんな生活がお盆過ぎまで続いた。

【国道252号交通寸断、JR只見線鉄橋崩落により不通、電気・上下水道使用不可、電化製品総てが使用不可、固定電話・携帯電話も使用不可、夜間は真っ暗状態】生きた心地がしなかった。健康で長生きしたいと痛切に考える機会になった。それから出来ることを実践し続けている。幾つか紹介しますが、決して参考にはなりませんので・・・年寄りの冷や水ですから。

その一 食生活の改善

朝食は、野菜を多くしたパン食に限る。現職時代は単身赴任・下宿生活が多く無理でした。帰省すればパン食でしたので専属シェフの考案のもと、充実したものを食べている。昼食も夕食もやや辛いのが、減塩メニューが出てくる。そして他人は信じないが、アルコール類を殆ど口にしない生活へと大変身した。（アルコール依存症にならないため）時々勝手に記念日をつくり『やむを得ず』500ミリリットル程度ぐいと飲んでいる。今年の夏は格別にうまい ご褒美に

その二 健康食品は健康な人の手で

サプリメントに頼らず、健康食品をこの手で1年かけて栽培する。つまり自給自足の小規模農業である。米（こしひかり）を含め人参以外の殆どの野菜は食べきれないほど栽培している。自慢できる農園は、猿などの鳥獣被害から農作物を守るために電気柵を設置している。（町の補助事業第1号、周囲120m・20cm間隔8段）金山町特産の赤カボチャは猿にも大好評。田畑を荒らさないために様々な作物を栽培しているのが実情である。とりわけひととき目立つのが『ひまわり・春林蔵』のヒマワリ畑である。『ひまわり油』の魅力に魅せられて10年。（ウクライナにはかなわないが）ドレッシングやマリネ風に。 毎食のお供に一滴・二滴で十分



周囲はネット

入り口⇒



農作物を鳥獣被害守るのは電気柵しかない



製油所で瓶詰めしているが販売はしていない。

※ 販売には食品衛生法・食品表示法などの課題もあるので・・・。

あと何年生産できるかな (間もなく後期高齢者 きっと耕作意欲もなくなる。)

ひまわり油の7つの効果信じて10年以上になる。オレイン酸、ビタミンE、リノール酸の効果が抜群と宣伝されている。①抗酸化作用・美肌効果 ②ダイエット効果 ③髪の保湿?? ④便秘解消 ⑤コレステロール値の低下 ⑥消化促進 ⑦抗炎症作用 これを信じて3、4年かけて成分の多い『春林蔵』にたどり着いた。北海道が主産地なのでなかなか入手困難でした。油は高級すぎて天ぷらには不向きである。健康体でなければ我が農園も雑草に負けてしまう。

その三 入浴は天然温泉で

現職時代から天然温泉には縁があり、10年近く毎日利用させてもらってきた。一日の疲れを取るには、天然温泉・源泉掛け流しが最高である。退職後の最高の贅沢を年間330日以上も継続している。生活のリズムの中に位置づけられているので入浴時間を優先した生活を確立してきた。連続して行かないと風呂トモがとても心配する始末である。疲労回復には天然温泉

その四 1日10000歩以上を

10年以上になるが、毎日の歩行距離、消費カロリー、歩行時間、歩行歩数を記録しているが、一万歩は中々継続しにくい課題である。退職して5年間は体力錬成の時間を設定してきた。健康維持増進のために、消防職員並みにプログラム化していたので一日がそれは充実していた。今は、朝仕事1時間を欠かさず実践している。(草刈りは朝に限る) 田畑の仕事をしていると数値はクリアしている。健康維持のためには野山に出て働くことが一番である。せめて猿より学習して農作物を鳥獣被害から守りたい。今年は、猿にもハクビシンにも荒らされなかった。

ひたすら動こう 無駄歩きはない

その五 老後は長期5カ年計画で

退職当時は、まだまだ元気であり希望に溢れていたが、次第に現実的になってくるのも当然である。そこで方向を変換し、長期5カ年計画にシフトチェンジしたので少し気が楽になった。

初めの5年間は地元の小中学校の行事にも積極的に関わった。取り分け冬季のクロスカントリースキーの指導には、各小学校と連絡を密にし計画的に参画した。自身の継続してきた2時間耐久レースにトレーニングを重ねながら連続出場し、年代別部門で2位入賞した。念願に表彰台に立てた。その後の5年位は地域への貢献で区の役員を続けてきた。その後は活性化委員会のリーダーとしてイベントの企画運営や町からの補助事業を引き受けて登山道整備などをしてきた。70代になれば、仕上げとして檀信徒に支えられ寺総代をしている。

後期高齢者になれば・・・いよいよ終活かな

ブチ目標を設定して

福島先生に深い敬意と感謝

只見町小川 渡部 早苗



3年前娘がお世話になった福島孝徳先生、「ラストホープ」とも「神の手」とも呼ばれた世界トップの脳外科医。「プロジェクトX」や「情熱大陸」などでも紹介されたのでご存じの方も多いと思います。アメリカを本拠地として、休みなく世界を飛び回って患者さんを救っている。その福島先生に出会えたのは、コロナ禍の数少ない恩恵とも言える奇跡でした。

娘はその10年前から目の奥に腫瘍ができ、命に関わらない良性のものであったので、視力に支障をきたす大きさにならない限り切除しない・・・その経過観察のために茨城から東京の大きな病院に3ヶ月ごとに通っていました。視神経に傷をつける恐れがあるため、日本では悪性等の急を要するものでなければ手術はしない。ただ腫瘍が大きくなり視神経を圧迫するようになればやむなく手術をするということでした。それは緻密で、視神経に傷つけば視力も失うという難しい手術だと聞いていました。

10年通院するうち、腫瘍も大きくなり、眼球が少し飛び出し、物が二重に見えるようになってきました。そのうちにコロナ禍となり、東京への通院もままならなくなり、いろいろな大学病院等で最良の方法はないか調べてみたそうですが納得できるどころはなく、ネット検索していたら福島先生の記事を見つけ、ダメもとで連絡してみたそうです。そのときは連絡がとれず諦めていたところ、後日事務所から連絡がきて詳しい病状を聞かれたそうです。すると、それは偶然にも福島先生が研究している内容の1つで、提携している日本の病院で診察してもらえることになったのです。そしてコロナ禍にもかかわらず、ご本人がアメリカから日本に来て手術をしてくださることになったのです。

娘から「来年6月に手術をしてもらえることになったけど、入院が長くなるから子どもたちが心配。お母さんは1.5～2ヶ月間も来れないよね。」と電話があり、代わりはいないと考えると行けないという選択肢はないと思いました。前職1期最後の3年目の12月でした。町長さんに話すと、その間休んでもいいからと温かいお言葉をいただきましたが、長期間不在となれば、町や学校に迷惑をかけることになるので1期末3月で退任させていただきます、この千載一遇のチャンスを生かすべく何でも協力するという思いでした。

手術当日、78歳の福島先生は、颯爽と若者のようにきびきびと行動され「一発完治を目指します。安心して任せてください。」と笑顔で言われたそうです。頭蓋骨を外しての大手術は後遺症が残る7時間以内で終えなければならず、遠くから祈る思いで待っていました。腫瘍は視神経に絡まっておらず、5時間で完全に切除して終了できたとのこと、本当に神様に思えました。「その腫瘍は誰でもどこにでもよくできるもので、ただできた場所が悪かった。見つかった10年前まだ小さいうちなら目をつぶってでもとれましたよ。」と言われたそうです。福島先生は、その後飛ぶように次の患者さんが待つ九州の病院に行かれ、麻酔から覚めたときにお礼も言えなかったとのことでした。

今年3月、世界のDr.Fukushimaが81歳でアメリカで亡くなられたとの悲しいニュースが届きました。福島先生と、この奇跡の出会いに心から感謝いたします。

祝 賀寿(95歳)坂内勝典先生

新年1月6日(土)に南郷片貝の自宅を訪ねました。前日が先生の95歳の誕生日であり、支部長さんと一緒に県退職校長会からのお祝いの賀詞と記念品をお渡ししてきました。

坂内先生は、社会科及び技術家庭科の教員として昭和29年に、荒海中に赴任され、以降南会津郡内の各中学校で教鞭をとってこられました。教員生活で最も心に残っているのは、雪崩被害(S59.2.28)を受けた直後の檜枝岐中学校に新任校長として赴任したときのことだとおっしゃっていました。普通は僻地で大過なく勤務を満了しようとするものですが、そのときの職員はみな、何かをやってやろうという気概を持っている者ばかりだったそうで、うかうかしていられなかったと振り返っておられました。飲酒の機会も大変多く、同伴された奥様も懐かしく語っておられました。その後、先生は檜沢中学校長を最後に退職されました。

いたって健康なご様子でしたが、数年前、命に関わる大きな手術をなさったそうで、現在、次男夫婦が同居してくれるようになり、安心して生活できると笑顔でおっしゃっていました。また、ひ孫も誕生し、その成長も楽しみなご様子でした。健康・長寿の秘訣をお伺いしたところ、無雪期は朝の散歩を30分程度続けてきたこと、また食べたいものをしっかり食べ、焼酎“ねっか”の晩酌を欠かさないことだともおっしゃっておられました。

終始にこやかに、ユーモアを交えてお話をされるところは昔から変わらず、また支えてくれている奥様への感謝、ねぎらいの言葉もお聞きし、理想の夫婦像を体現なさっておられるお姿に頭の下がる思いでした。



賀寿を掲げる坂内勝典先生



齋藤支部長から伝達

祝 賀寿(95歳)野中儀一先生

5月2日(金)に満95歳の誕生日を迎えられた野中先生に、賀詞と記念品をお渡ししました。「この年になって賞状をもらえるとは思ってもみなかった。とても嬉しい!」とお話しなさっていました。

先生は平成2年に田島小学校長を最後に退職されましたが、青年時代には特に陸上競技の指導に精通され、数多くの教え子たちが全国レベルの実績を上げてきました。また、道徳教育にも熱心に取り組み、全国大会での発表のご経験もおありです。さらに、ご自身もマスターズの陸上競技大会に連続出場し、入賞を果たしてこられたことも特筆しておきたいと思います。

祝 瑞宝双光章 渡部岩男氏 会津若松市真宮在住

春の叙勲が4月29日付で発令され、県内からは78人が受章しました。各分野で顕著な功績がある方が対象の旭日章は20人、公務や公共的な業務に長年従事した方に授与される瑞宝章は(双光章を含む)、58人でした。

渡部先生は公教育(小学校・中学校)はもちろんのこと、県教育庁南会津教育事務所でも指導・管理の立場で我々をお導きくださいました。3年間は出身地の下郷町の教育長として教育行政でも手腕を発揮されました。数々の実績・功績が認められ、この度の榮譽に輝きました。誠におめでとございます。

現在は、会津若松市真宮に在住です。



☆瑞宝双光章
わたなべ いわお
渡部 岩男さん70
会津若松市

「子どもは鏡」座右の銘

「子どもは鏡」を信条に掲げ、精いっぱい教え子たちと向き合ってきた」と41年間の教育人生に胸を張る。小、田島中の校長を歴

任。2015年から3年間は下郷町教育長を務めた。いじめや不登校など、多様な学校問題解決にも正面から取り組み組んだ。「子どもたちが持つ、それぞれの力を引き出す教育をしてほしい」と後進の教育者に思いを託す。

※ 福島民報記事より

令和6年度定期総会 及び会津大会第1回実行委員会 令和6年4月18日(木)



定期総会から

支部長挨拶で令和6年度退職校長会の方向性が示され、緊張感が出てきました。来賓祝辞並びに講話で、県教育委員会重点施策・南会津教育事務所重点施策全体構想・管理上の努力事項等について資料をもとにお話されました。



平山南会津 室井協議会長
教育事務所長

室井協議会長から域内の学校現場の諸問題や教育情報をお伝えいただきました。(下記)

- 1 コロナ禍で大きく進んだICT環境
- 2 多様性を尊重する教育活動の変化
- 3 児童・生徒数減少の中での諸問題
- 4 定年引き上げによる多様な勤務形態
- 5 働き方改革の中での諸問題
- 6 教職員の価値観の変化

総会では、規約の一部改正について協議・承認されました。(賛助会費の徴収廃止等)

川島敬章氏が南会津町教育長に就任されましたので、監事役員として星 英雄氏が選出されました。(残任期間)

第1回実行委員会では、資料をもとに概要説明があり各係役割分担が示されました。

創立60年記念 第58回 福島県公立学校退職校長会福島大会(二本松大会)

令和6年6月12日(水) 二本松御苑において開催されました。南会津支部からは7名が参加しました。



福士寛樹大会会長挨拶

(齋藤支部長、星・玉川・橋副支部長、大塚会計、田中広報、星庶務)

昨年度に続き通常開催となりました。開会式後の講演は「生きることは描くこと、生きることは演じること

～大山忠作と私～」の演題で実娘 大山采子氏が行われました。



故 忠作氏を熱く語る

芸名・一色彩子

大山氏は芸の道へと駆り立てた偉大な父について、(父の生い立ち、九死に一生を得て帰国、父の後ろ姿と私の幼少期、生涯をかけて演じる)熱く語られました。(時代劇から現代劇まで幅広く

活躍中の女優さん)

体験発表 次の各支部代表者が務めました

石川支部 代表 小針良仁氏

石川町歴史民俗資料館移転オープンにあたって

耶麻支部 代表 神田優子氏

「人づくりの指針」への関わりを通して

いわき支部 代表 矢内金五氏

富士山の見える阿武隈の山々

大会宣言

※ 詳しくは松風8月号を参照してください。

閉会式では、次期開催支部代表あいさつで、会津大会(南会津大会)(案)が確認されました。期日 令和7年6月10日(火)を予定しています。

現職・退職校長合同研修会

令和6年8月20日(火) 田島中学校



現職校長会の先生方

校長に求められるリーダーシップとは何か

- 1 授業で学校を変える ～楽しさは学ぶ力～
 - ・「いい授業」とはどんな授業か
- 2 働きがいのある職場環境づくり
 - ・プレミアム休暇の導入
 - ・全学級副担任制度の導入
- 3 子ども、教職員のよさを伸ばす
 - ・子ども、教職員の心とつながる

今年度は「オンライン講演」で行われました。
演題『幸福感に満ちた学校づくり』講師 十文字学園
女子大学教授 塚田正一氏によるものでした。

従来の講演会とは異なり、画期的な手法でした。
地方にいても中央の教授の生の講演を聴くことが
でき斬新でした。会場の都合上現職の校長先生とは別
教室でした。貴重な講話は現職の頃に刺激を受けて
おきたかったと述懐した方もおられました。



退職校長会の先生方

限られた時間の中でも塚田教授の熱い思いは、現職・退職校長問わずひしひしと伝わって来ました。学者ではなく、実際に子ども・教職員・地域が好きで地域に根ざした教育を展開されてきた方だと感服しました。

現職・退職校長合同懇親会

丸山館において



ネームを付けて円卓を囲んで

コロナ禍から解放され、ようやく実現した合同懇親会ですが、退職者の参加者がやや少なく現職の校長先生方には申し訳なかった気もします。職場を共にしたり、顔見知りの方も多く元気を分けてもらいました。やはり交流を深めるには懇親会が必要だと感じました。事務局の計らいでネームプレートをつけての懇親会でしたが、すぐに打ち解けることができ好評でした。

〈 追 伸 〉

オンライン講演後でしたが、事務局役員会で当支部の抱える課題を幾つか協議し、今後に備えようとしています。会員の減少や高齢化は避けては通れない課題ですが、知恵を絞りながらよりよい方向へ軌道修正したいです。



事務局役員会 8 / 20

「福島県老人クラブ連合会・元輝新報」より

元輝川柳 に投句されてゐる方もいらっしやいます。
課題「虫」

南会津町田島 湯田耕術
虫歯菌 住む場所ないよ 糞入れ歯

檜枝岐村下ノ原 星富子
ふるさとに 一役買つて せみの声

「只見俳句会」より

只見町亀岡 青藤修一
沢の音 青葉突き抜け 大空へ

わけもなく 追いつ追われつ 蝶々かな

「おくやま吟社 例会」より

南会津町田島 湯田耕術
買初や 小法師五つ 転がして

晚酌や 山の独活には 手前味噌

南会津町滝原 五十嵐利明
外国語の 飛び交ふ宿場 桜咲く

父の日や 宅急便の 不在票

南会津町長野 星弘明
新緑や 喜寿の祝いの クラス会

階段を 昇り降りて 風の涼



倶楽部活動へのお勧め

趣味・特技を持っていても仲間が近くにいないと継続しないものです。句会のようにお誘いがあれば参加しやすいです。地域ごとに活動されているようです。南会津支部には正式なクラブ活動的なものはないですが、地域の「企画・イベント」に参加し、リフレッシュしたいものです。

当支部でも「パークゴルフの集い」を予定しています。

ご案内

研修会「パークゴルフ」
日時十月十一日(金)十三時、
会場 大川ふるさと公園
※詳しくはクラブ長(星)まで

是非お近くの方を誘って参加しましょう。

編集後記

多くの方々の寄稿により、会報「みなみあいづ」第二十四号を発行できました。心より感謝申し上げます。手作りの広報・多くの方々に読んでいただける広報を目指してきました。多忙な中快く・心温まる御寄稿に感謝申し上げます。お互いにたくさん元気をいただきました。なお県退職校長会ホームページでは各支部の広報紙もご覧になれます

表紙題字

故桑名完爾先生

表紙写真その他のイラスト

田中昭一



表紙に思いを込めて



只見ふるさとの雪まつり

2月8～9日

華やかだが、今年でまだ第52回と歴史は浅いです。祭礼とは異なり観光イベントです。

南会津町・古町 廣瀬神社倒大祭

9月14日

(約340年の伝統ある倒大祭)

6月に御神輿修繕が完了し、4年ぶりに御神輿渡御祭が行われます。



増枝岐歌舞伎発表会 4月に冬の間の練習成果を村民向けに発表します。(約270年の伝統を継承)
 増枝岐歌舞伎・愛宕神祭礼奉納歌舞伎 5月12日
 鎮守神祭礼奉納歌舞伎 8月18日
 神に奉納する歌舞伎を継承しています。座員は総て村民で構成されています。
 (千葉之家花駒座・座長11代目)



下郷町・大内宿半屋まつり 7月2日

平家との戦いに敗れて逃げ延びた、後白河天皇の第2皇子・高倉以仁王(たかくらもちひとおう)の霊を祀った「高倉神社」の祭礼です。

平成18年の大合併前の南会津郡内は、3町4カ村で構成されていました。それぞれの町村には歴史もあり文化がありました。

脈々と流れる魂が「まつり」に象徴される気がしています。これらの生き様を後世の伝えなければなりません。そんなことを考えながら表紙を分けて作成しています。(4種類) 広報担当



役員一覧

顧問	星 富子 五十嵐利明 小林 宗一	広報部長	田中 昭一	第2方部	高橋 弘之	
		クラブ長	星 賢二	第3方部	橋 成美	
		方部理事		第4方部	飯塚 義雄 渡部 早苗	
支部長	齋藤 修一	第1方部	室井 永治	庶務	星 裕次郎	
副支部長	星 弘明 玉川 邦夫 橋 成美 馬場 永好		山本 恭士 大桃 豊 星 俊夫	湯田 恒弥 大塚 聖子 佐藤 淳一	会計	大塚 聖子
					県評議員	齋藤 修一 星 裕次郎
	監事	佐藤 誠一 星 英雄	第2方部		2年間お世話になります。 会員の皆様 ご協力ください。	